

一般財団法人市川市福祉公社

平成 30 年度第 2 回介護・医療連携推進会議 議事録

1. 日 時：平成 31 年 2 月 13 日（水） 午前 10 時 00 分～午前 11 時 00 分
2. 場 所：i-link ルーム 2 会議室
3. 出席者：25 名

〔委 員〕

議長 高久 悟
委員 堀 邦光
四ツ屋 真由美
村尾 薫

以上 委員 4 名

〔オブザーバー〕

市川市福祉部福祉政策課 1 名
高齢者サポートセンター市川第一 1 名
高齢者サポートセンター市川第二 1 名
高齢者サポートセンター菅野・須和田 1 名
高齢者サポートセンター真間 1 名
高齢者サポートセンター曾谷 1 名
高齢者サポートセンター国分 1 名
高齢者サポートセンター国府台 1 名
高齢者サポートセンター八幡 1 名
訪問介護事業所 1 名

以上 オブザーバー 10 名

〔事務局〕

常務理事 林 芳夫
事務局長 今井 真希
事業部長 内野 智美
当該事業管理者 館山 史陽
巡回ステーション 主任 豊崎 邦幸
計画作成責任者 澤村 泉 藤田 健治（司会）

以上 事務局 7 名

〔公社職員〕

4 名

以上 公社職員 4 名

■ 開 会

- (1) 事務局より資料の説明を行う
 - ・平成 30 年度 第 2 回 介護・医療連携推進会議資料
 - ・利用者一覧
- (2) 市川市福祉公社常務理事より挨拶
 - ・開会にあたり会の趣旨を説明
- (3) 委員、オブザーバー紹介
- (4) 事務局紹介
- (5) 前回会議指摘事項の報告（館山）

●サービス提供等状況報告・相談受付状況について

<事務局 藤田>

- ・レジュメに沿い 9 月～1 月の相談件数等を報告した。

<高久議長>

- ・定期巡回随時対応型訪問介護看護に関する平成 27 年の調査研究では利用者数平均 16.6 名とのこと。当時と比較すると市川市のこの人数をみるとやっこのサービスも定着してきた感がある。これまで工夫してきた点はあるか。

<事務局 澤村>

- ・定期巡回随時対応型訪問介護看護と夜間対応型訪問介護を混同している方もいるが、このような会議や介護教室などの場面でこのサービスを紹介させてもらっており周知に手ごたえを感じている。

<四ツ屋委員>

- ・周知の結果、利用者が増えていると思う。随時訪問が多かったのは私も関わっているケース。長期利用者で、訪問看護も随時でよく呼ばれている。一生懸命やっているがなかなか難しい。本人に説明するも随時訪問が減らず頭を悩ませている。今後も協力していきたい。

<村尾委員>

- ・今年度の研究調査では 1 月時点で利用者数平均 14 名。事業所としてもいっぱいはいかと。平均訪問回数や利用者数は今後どの程度考えているか。

<事務局 館山>

- ・人員増とタブレット導入で時間削減した分を新規対応にあてたい。17 名目標。

<村尾委員>

- ・タブレットのシステムコストは？

<事務局 館山>

- ・月 5 万円程度かかる。

<堀委員>

- ・頑張っていると思う。随時訪問の内容についても内容を把握した。継続してほしい。

●事例検討及び事例報告

①事例検討

<事務局 豊崎>

- ・レジュメに沿い事例検討内容を発表した。

<高久議長>

- ・中身が濃いケース。

<四ツ屋委員>

- ・これも私が関わっている。11月迄はとても調子が良く軽介助で済んでいたが、心不全、圧迫骨折後は寝たきり。今後、事業所間で連携していくことで本人の気持ちも上げられるかどうか。寝たきりでありリハビリテーション導入が少し遅れたかもしれない。総じて上手くいっていたケース。

<高久議長>

- ・プランが変更になっているが状況に合わせたベストの状態ということか。加えて制度の中でプラスになる事があるか。

<四ツ屋委員>

- ・特別無い。

<事務局 澤村>

- ・訪問リハビリテーション導入が遅くなったのは、費用面でオーバーが出てしまうことについてご家族との合意がなかなかとれなかったことが理由。現在も自費が出ている状況。

<村尾委員>

- ・通所リハビリテーション（デイケア）は1日車椅子に座っていることになる。通所リハビリテーションから通所介護（デイサービス）への移行も検討に加えたい。通所介護ならベッドで休むこともでき、徐々に座位時間が取れるようになったら再び通所リハビリテーションへ、というのも一案。

<事務局 澤村>

- ・車に乗っての長時間移動が難しい為、訪問入浴、訪問リハビリテーションにしている。今後リハビリテーションの方とも連携しながら対応していく。

<村尾委員>

- ・座位保持が難しい場合、リクライニングチェアの導入も検討されたい。

<高久議長>

- ・多くの方がかかわった事例であり結果的に上手くいっている。今後さらに質を高めるためにも、関係者同士の関わりの中で気付き等あるか。

<四ツ屋委員>

- ・ADLの面でも連携していきたい。座位時間を延ばしていくためにももう少しリハビリテーションを増やしたい。

<村尾委員>

- ・事業所間の情報共有が大事。何でも言いやすい環境を整え顔の見える関わりが必要。

<堀委員>

- ・入所された時よりも良くなったとの事。圧迫骨折後、目標設定柔軟にされている。リハビリテーションによって意欲も引き出している。引き続き本人の希望を大切に社会的な交流を見据えた支援もお願いしたい。介護度も高めであり、独居高齢者、ターミナルケアも受け入れている。想定外のこともたくさんあるのではと思う。これから介護度も更

に上がり、独居の高齢者、医療依存度の高い方もますます増えていく。引き続きよろしくをお願いしたい。

②事例報告

＜事務局 澤村＞

- ・レジュメに沿った事例を報告した。

＜村尾委員＞

- ・ターミナルケアは特に事業所間の情報共有が必要。ケアマネージャーから主治医に何でも聞けるような関係性づくりをする等、ちょっとしたことで情報共有できる。

＜四ツ屋委員＞

- ・連携がとてもうまく言ったケース。ターミナルケアは医療保険で入る事も出来、在宅におけるターミナルケアはもっと増えればよいと思う。

＜堀委員＞

- ・同意見。一つ質問だが、内服薬の預かりについて第三者が管理可能なのか。

＜事務局 澤村＞

- ・第三者ではなくキーパーソンは義理の妹。

＜高久議長＞

- ・地域の方も関わる事業であることを期待する。

●事務局 館山より来年度のシステム導入について報告

●オブザーバーの方々から

＜高齢者サポートセンター市川第一＞

- ・ヘルパーの気付きに関して報告が遅れるというような話があったが具体的にはどのようなことか。

＜事務局 澤村＞

- ・週1回の訪問ヘルパーに比べると、毎日訪問している職員の方は、慣れが出てきてしまうという意味。

＜高齢者サポートセンター市川第一＞

- ・キャッチしたい変化を予測し、事前に共有することが見立てであり、そのうえで訪問することが必要かと思うが、そもそも何に気付くべきだったのかという問題意識が無ければ、改善できないと思うので検討して頂きたい。

＜高齢者サポートセンター市川第二＞

- ・随時の対応は基本的に緊急度の高い状況での訪問と考えるが、救急搬送と同じように、ある程度適切な利用を目指すべきではないだろうか。少しでも改善できればより良いかと思う。

＜事務局 館山＞

- ・通報内容だけでは判断が難しい場合もある。実際に様子を確認しなければ判断しかねる場合も多く、訪問している。通報内容によっては時間が空くタイミングで訪問している。

＜高齢者サポートセンター菅野・須和田＞

- ・この事業があることで、今まで自宅で暮らしたくても排泄介助が加わると家族はお手上げ

であり、施設の選択肢しかなかったが、時間だけではなく状態に応じて対応できることで、そういう状態でも自宅で生活できるという選択肢が増えた。今回、現場からの声を聞くことが出来て良かった。包括として今後とも協力していきたい。

<高齢者サポートセンター真間>

- ・お金がかかってしまうのは現実だが、高齢者世帯でも自宅で生活することが出来るという事をもっと知ってもらいたいと思った。

<高齢者サポートセンター曾谷>

- ・現状を聞くことが出来て良かった。マンパワー不測の解消、タブレット導入など上手くいけばよいと思う。

<高齢者サポートセンター国分>

- ・終末期を自宅で過ごす人が今後増えていく。このサービスについて居宅ケアマネージャーが知らない人も居る。高サポとしてもケアマネージャーへ説明し利用できることを広めていきたい。

<高齢者サポートセンター国府台>

- ・タブレットの具体的な運用方法と効果について知りたい。

<事務局 館山>

- ・サービス内容から実績まで入力することができ今までより作業時間削減が可能となる。具体的には加算と減算の確認のみで済むので実績作業に係る3～4時間の削減が出来る。タブレットとパソコンの連動も出来るので即時性も高まる。

<高齢者サポートセンター八幡>

- ・家族介護教室では、この事業の説明をして頂きありがとうございます。参加者の関心がとても高かった。在宅における不安のある方は多いが、本当に必要な人はどういう方か見極めていきたい。

<SOMPOケア>

- ・タブレットは細やかな記録もできるのか、又、情報共有は可能か。高齢のヘルパーでも使うことが出来るのか。

<事務局 館山>

- ・サービス内容のチェックも出来、音声入力も出来る。すでに使っている事業所へのヒアリングによると高齢のヘルパーでも時間はかかるが慣れてくるとむしろ楽になる様であるという事も聞いており、レクチャーをしっかりとすれば可能と思われ心配はしていない。

<事務局 内野>

- ・クラウド管理で経過録、申し送りも見る事が出来る。タブレットも数台用意する予定。パスワードを設定するので持ち歩きも問題無い。

■ 閉会

閉会にあたり事務局より挨拶

・次回介護医療連携推進会議予定 平成31年5月21日（火）

上記の通り、委員の方より頂きました、貴重なご意見をもとに今後とも取り組んでまいります。長時間にわたり、ありがとうございました。

以上

文責：市川市福祉公社

訪問介護課 1課 巡回ステーション 藤田